

## 14 「歯科ホワイトニング特論」における実習前後の意識変容

小野真奈美, 木暮ミカ

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : ホワイトニング, 意識変容, 自己評価, 歯科衛生士の役割 (3~5ワード)

### はじめに

近年の審美歯科へのニーズの高まりにより, 本学口腔保健衛生学専攻においても歯科ホワイトニング特論を開講している. 歯科ホワイトニング特論では, ホワイトニングに関する専門的知識, 技術の講義の他, 歯科衛生士がホワイトニングを主体的に実施するための知識と技術習得を目標に歯科ホワイトニング実習を行っている. 今回は, ホワイトニング実習前後での自己評価の分析を行い, 意識変容について調査した.

### 対象および方法

対象は, 口腔保健衛生学専攻生で歯科ホワイトニング特論選択者6名である. 方法は, 歯科ホワイトニング特論(全15回:講義8回, 実習7回)のうち, ホワイトニング実習前後に自己評価(A~Dの4段階評価)を行った. Aを4点~Dを1点としてスコア化し, これを一元配置分散分析にて分析した.

### 結果および考察

到達目標7項目のうち, 「歯の変色の原因を分類, 説明できる」「ホワイトニング剤が歯質に及ぼす影響について説明できる」「漂白効果の評価方法について説明できる」の3項目について実習前後で有意な差があった( $p < 0.05$ ).

ホワイトニングに関する専門的知識と技術は, 講義でその基礎知識を習得したものの, 実習前の自己評価では「あまりできない」「できない」と答えた者が多かった. しかし, ホワイトニング実習でホワイトニング処置開始前のカウンセリングからホワイトニング中, ホワイトニング処置終了後のコンサルテーションまで一連の流れを相互実習で体験し, 術

者・患者それぞれの立場を経験したことで意識変容に繋がったと考えられる. 歯科衛生士は, ホワイトニングを行うにあたり, ホワイトニングの原理を十分理解して患者が不安なく施術が受けられるように説明する必要がある. 相互実習を通し相手に説明し, 処置したことで知識が定着したことが伺える.

到達目標のうち有意差がみられなかった項目は, 「歯科ホワイトニングに用いる薬剤の種類と作用について説明できる」「歯の漂白メカニズムを説明できる」「歯科ホワイトニング法の分類, 臨床術式, 副作用とその対処法について説明できる」「ホワイトニングにおける歯科衛生士の役割について説明できる」の4項目である. 薬剤の作用や漂白のメカニズムなど化学的知識は実習を通して理解が難しかったためと思われる. また, 学生個人の基礎学力や実習へ向けての準備など主体的な学びの違いが意識変容の差に繋がるのではないかと考えられる.

「ホワイトニングにおける歯科衛生士の役割について説明できる」の項目では, 有意差はみられなかったものの, 実習後全員の自己評価が肯定的に変化し, 「できる」と答えた者は6人中5人に増え, 歯科衛生士の役割を認識できたと手応えを得たことが示された. 講義によって得た知識を実習という経験を通してより深めることができたためと思われる.

### まとめ

ホワイトニング処置を実体験することで, 術者・患者それぞれの立場で気づきを得ることができた. その経験が知識と技術の定着に繋がった. 実際に処置することで責任が生まれ, 主体的な学習への動機付けになるとと思われる. そのため, 実践への事前準備など学習行動の違いにより, 意識変容に差があるのではないかと考えられた.